



かんがるー



2005年10月14日（金）NO. 39

秋の空気をたくさんすいながら

後期が始まり、木々が赤く色付いたり、落ち葉が散っていたりと、大学周辺もめっきり秋らしくなってきました。子どもたちも、今週は、澄んだ秋の空気をたくさんすいながら、元気に外で様々な遊びを繰り返していました。



庭の一角に泥遊びをする場所ができました。（たいよう組さんが、琢先生と一緒に釘を打ったり木酢液を塗ったりしてわくを作りました）

土に水を加えて形が作れる柔らかさの泥を作るところから始まります。琢先生としん君が二人で泥の感触を楽しんでいると、3人の女の子が早速かわりを持ってきました。



平らにして手形をとったり、土粘土のように器を作ったり、木の実や落ち葉をつけてオブジェを作ったりしました。

形作るためのちょうどよい泥の堅さを作るために、4歳児の子どもたちは、土と水の量の関係に着目しはじめたようです。



土管の隣になにやら坂ができ、突起が所々についています。そこに手を駆け足をかけて登っていくのですが・・・。4歳児たいよう組の男の子はするすると登っていきます。それをあこがれの目で見ている3歳児。



また、築山の脇には、ロープがついていて、そこを伝って上れるようになっています。

遊びの中で、体を様々に使って、自分の力試しをしています。きっとこれから様々な修行が始まることでしょう。



琢先生が、板に切り込みを入れて組み立てられるようにしてくれました。砂場で遊んでいた子どもたちは、それを基地にしながら、その後5、6人で楽しむ姿がありました。これから、遊びながら子どもたちには、様々な組み立てながら構成する力がついていくことでしょう。



かのこ先生と一緒に、木片を組み合わせてボンドでつけてみたり、釘を打ってみたり、木の実をつけてみたりしています。使い慣れない金づちですが、初めて使う子どももいて、興味津々。でも慎重に使っていました。



畑の野菜に水をかけに行く途中、赤く紅葉した桜の落ち葉を見つけた子どもたち。赤やオレンジや黄色など、色にこだわる子、穴空きや大きいのが小さいのなど形にこだわる子と、自分なりのこだわりを持って落ち葉を拾っていました。

だいこんさん、大きくなってね!



9月13日に蒔いた大根の種が、こんなの大きくなりました。

「みんなどこが大根になると思う？」と志乃先生が訪ねると、「ここだよ」と根本を指してくれたこうた君でした。

おいしい大根がなるように、みんなで水をかけました。



落ち葉をたくさん集めて、簡易プールに水の替わりに入れました。ジャンプしたり、もぐったりと活動的でした。



ほうれん草や五月菜なども大きくなっていましたよ!

